

# まちのスケッチブック

夢をかたちに…あたらしいまちづくり VOL-11

泉佐野市議会議員 **千代松 大耕** (28歳)

新しい時代の政治を創る。



「改革の方向と結果には、人々を官僚統制の固定した世の中に抑え込む「閉じる改革」と新しい発想と文化に飛躍させる「開く改革」の2つの種類がある」内閣特別顧問の堺谷太二氏の言葉であります。前者の見本は江戸時代の享保の改革で、後者の見本は明治維新であります。徳川吉宗の行なった二十一年にも及ぶ享保の改革は徳川幕府の体制を守るには役立ち、武士階級からは称賛されましたが、日本全体を停滞と閉塞に陥れた官僚主導の改革でありました。幕末維新の改革は、外国からの要求を受け入れて貿易や流通を自由化し、伝統的な規制や慣習をことごとく廃止しました。そういった中で日本近代化への新しい力が湧き上がりました。享保の改革は武士の文化を維持し強化したのに対し、後者は武士の文化を否定、古い官僚規制と手続き主義を排除した改革でありました。私自身は現在行なわれている泉佐野市での改革が従来の行政上での慣習、手法などを見直して市民の方々の選択を助け、新しい世紀に泉佐野市を「開く改革」として参りたいと考えております。

## 三月定例議会

平成14年度の各会計予算が上程される三月定例議会が3月5日より開催されました。泉佐野市の厳しい財政状況を踏まえ昨年策定されました「泉佐野市行財政改革推進計画・第2次実施計画」に基づいて編成された平成14年度各会計予算の規模は次のとおりであります。

	平成14年度	平成13年度	増減額	比率
一般会計	389億246万9千円	368億2853万6千円	20億739万3千円	105.6%
特別会計	294億279万3千円	276億9775万円	17億504万3千円	106.2%
事業会計	192億2482万7千円	193億6296万2千円	△1億3813万5千円	99.3%
合計	875億3008万9千円	838億8924万8千円	36億4084万1千円	104.3%

平成14年度の一般会計の当初予算では、単年度で14億8000万円の収支不足が生じ、そのうち財政調整的措置として10億4000万円は財政調整、減債、公共施設整備の3基金をほぼ全額取り崩し、単年度の不足を実質4億4000万円まで圧縮しました。しかし累積では13年度までの予算ベース上の不足分の34億円と合わせますと、38億4000万円の赤字となる状況であります。財政再建準用団体転落のデッドラインが現在42億円ですので極めて厳しい財政状況の中にあります。こういった財政状況を打破するために昨年「泉佐野市行財政改革推進計画・第2次実施計画」が策定されました。この計画は「民間で出来ることは民間に任せていく」「肥大化した行政をスリム化していく」といった内容のものであっていわゆる泉佐野市の構造改革であり、この計画に対してさらに補うべき部分や確実に遂行されるように、私自身、素案の段階から9月・12月・3月と三回に渡り議会で一般質問を行ないました。この計画が円滑に進めば平成17年度で泉佐野市は単年度黒字が達成されます。そして市民の方々の生活に大きな影響を及ぼす自治体の倒産である財政再建準用団体転落は回避できます。平成14年度一般会計の当初予算では投資的経費として小中学校(第三、長南小学校・佐野、新池、第三中学校)のトイレの改修事業や松原住宅建替え事業などが盛り込まれています。厳しい中であっても、このように市民の方々から寄せられる様々なニーズに対して最低限応えていくためには、何としても計画を円滑に進め、財政再建準用団体転落を防がなければならないと強い決意で臨んでおります。

これからの時代を担う子どもたちには、社会の大きな変化に十分に対応できる力を養うとともに、人を思いやる心など豊かな人間性を育むことが求められております。そしてしっかりと将来を見据えて、自覚と責任を持つた大人に育つていってほしいと考えております。週五日制が完全実施され教育の大きな転換期にある今、教育現場が抱えている課題に対して、泉佐野市はどのように考えているのか？どう対処していくのか？自由民主党泉佐野市議員団を代表して「教育の振興」について3月議会で質問いたしました。

千代松：…

平成14年度からは新学習指導要領に基づき学校週5日制が完全実施される。そういつた中で児童・生徒が有意義に時間を過ごし、また活動できるような何か検討されているのか？学校週5日制推進委員会ではどのような話し合いがなされているのか？

教育部長：…

学校週5日制の趣旨は、家庭や地域社会で教育を受ける機会を増やすことにより、学校・家庭・地域社会でバランスのとれた教育を実現し、ゆとりと豊かな心と生きる力の育成を指している。学校週5日制推進委員会では社会教育施設等の事業予定の中に、子ども達と保護者が一緒に参加できる活動も組み入れている。また「校庭開放」も拡大し、子どもたちが自由に活動できる場の提供も進めていく。

千代松：…

地域・家庭との連携を深めるための学校協議会が平成13年度から試験的に泉佐野市においても導入されて

いる。学校協議会の現状と各学校でどのように運営されているのか、4年度はどのように進展されていくのか？

教育部長：…

学校協議会の目的は、校長の学級経営に関して、地域社会・保護者の意見や要望を踏まえて、学校の向上・発展のために意見具申を行なうことにより地域に開かれた学校づくりを推進することにある。平成13年度は末広・北中小学校、新池・日根野中学校が実践している。教育計画、生徒指導計画、安全確保、学校教育自己診断、週5日制などを議題として2回程度開催された。平成14年度はさらに4校実践校を増やし、学校協議会の充実に努めていく。

千代松：…

平成14年度の予算には長南中学校屋内運動場の実施設計費や各小中学校のトイレの改修事業費が盛り込まれている。しかし泉佐野市の学校教育施設の現状はこういった事業だけでは十分ではない。大規模改修事業や校舎の改築などは、現在の財政状況では厳しいかもしれないが、これからの児童・生徒の健全な成長を図る上でも、もっと積極的な教育環境の改善には取り組めないのか？

教育部長：…

泉佐野市においては、昭和40～50年代の児童、生徒の急増期に合わせて建設された校舎等が多く、これらの建物は今後概ね十年以内に大規模改修や改築の検討が必要となってくる時期を迎える。市の財政状況を勘案しながら、緊急度等さらなる事業精査に努め、児童・生徒の教育環境の改善を図っていく。床板、窓枠、照明器具改修等の小規模工事については毎年、各学校より要望が上がってくる

ので児童・生徒の学校生活での安全性・快適性を考慮して施設改善を図っていく。

千代松：…

現在そして将来の泉佐野市のことを考えた上で、次代を担う子ども達のために今後、泉佐野市学校教育が目指すものは何なのか？

教育部長：…

国際化、科学技術や情報化の進展、少子高齢化、地球規模での環境問題など社会の変化は、教育の分野にも大きな影響を与えている。次代を担う子どもたちには、こうした変化にも十分対応できる力を養うとともに、他人を思いやる心など豊かな人間性を育むことが求められている。そのためにも泉佐野市では、学校教育として「学校の運営管理に適正を期する」「学校環境の整備・充実を図る」「公教育担当者としての責務を遂行する」「適正な教育課程を編成し、有効な学習指導を図る」などさまざまな重点政策を掲げ、取り組んできた。今後もしっかりと深めていく。

泉佐野市行政の特徴として「他の市がやっていないからまだやらぬ」とか「他の市がやり始めたからそろそろ泉佐野市もやろう」といった事が多々あります。それは特に教育行政において見られます。激変する社会情勢に対応できる力を子ども達に養ってもらうには、まず教育の現場が時代の流れを敏感に読み取る力が必要であると思えますが、泉佐野市の教育現場においては、そのようには見受けられません。時代の流れに泉佐野市の教育現場が乗り遅れないように、提言を続けて参りたいと考えております。



松原町町内会総会にて市政報告

## 千代松大耕プロフィール

- 1973.10.3 泉佐野市松原生まれ
- 1986.3 泉佐野市立第一小学校卒業
- 1989.3 泉佐野市立佐野中学校卒業
- 1992.3 同志社香里高等学校卒業
- 1996.3 同志社大学経済学部卒業
- 1998.7 米国Lincoln University 大学院経営学修士課程修了
- 1999.4 株式会社 堀場製作所 入社
- 2000.2 泉佐野市議会議員初当選

現在 泉佐野市議会議員  
 自由民主党泉佐野支部政務調査会長  
 社団法人 泉佐野青年会議所会員  
 同志社大学体育会アメリカンフットボール部OB会常任理事  
 大阪府立大学大学院経済学研究科博士前期課程(社会人コース)在学中